

フランソワズ・フォレット

Françoise Forette

ILCフランス理事長

7月4日にボブ・バトラー が亡くなったという知らせを受け、私は非常に大きなショックを受けた。なぜならば、彼の持つエネルギー、気力、体力、仕事や健康を考えれば、少なくとも100歳までは元気で活動を続けてくれるだろうと信じていたからだ。

●

私が彼に初めて会ったのは30年ほど前のことだ。当時私は、新米の医師であると同時に研究者でもあり、ハンブルクで開かれたIAGG総会で高齢者の高血圧症に関する長期的研究の発表を行った。その総会の議長を務めていたのが彼で、私は彼の考え方や熱意、そして後輩たちに対する思いやりに強い感銘を受けた。

彼はその数週間後に、スウェーデンのイエーテボリで開催されたWHOのエイジングに関する会議に、私を招いてくれた。彼の友人Alvar Svanborg氏が議長を務めたその会議に参加して以来、驚くほど長い間私は老年医学のパイオニアであるこのお2人と、信頼し協力し合える友人としてお付き合いさせていただいた。

ボブは私たち皆にとって素晴らしい先輩であった。

●

改めて彼の業績を振り返ってみると、Christine Cassel氏が述べたように、バトラー博士は「医学の全領域を作った人物」と言えるであろう。

彼は国立保健研究所 (NIH) にある国立老化研究所 (NIA) の設立に尽力し、その初代所長を務めた。

各国 (特にフランス) の医学部の履修課程に老年医学を含めることを推進し、高齢問題に関する調査の発展に貢献した。

彼がマウント・サイナイ医科大学に設立した老年医学(および成人発達に関する)学部は、私たちすべてにとってモデルになった。光栄なことに、

私は1990年にその学部の客員教授を務めることになり、パリのBroca病院に老年医学科を設立するために必要な知識や情報を得ることができた。

2年前、フランス保健省が設立を許可したThe Gerontopole of Toulouseは、彼の老年医学部の構想と完全に合致するものだ。

彼は、医師や医療従事者に対する働きかけだけでは十分でないと考え、すべての領域において高齢者を支援することを決意した。そしてまた彼は、あらゆる種類の年齢差別と闘った。

その後、彼は「人口の著しい高齢化は国家にとって危機ではなく、むしろ好機である」ことを政治界、教育界、産業界に認識させるため、ILCを1990年に初めて設立した。

1996年に私は彼の依頼を受け、第3番目の国際長寿センターとなるILCフランスを設立した。第2のセンターは、ILC米国ができた直後に設立されたILC日本である。

現在、ボブの考えに感銘を受けた世界12カ国にILCが設立されている。どのILCセンターも、「高齢者が健康で活発に生きられるならば、高齢化は恩恵である」という彼の思想を広める努力をしている。また、「健康と長寿は富を創出する」という彼の信条の普及にも努めている。

●

ロバート・バトラー博士の代わりになる人物はいないと思う。

彼は私たちの目を開き、進むべき道を用意し、彼の仕事を継続するために必要な強い意志と情熱を私たちに授けてくれた。

敬愛する友人を失った私たちは皆、悲しみにくれている。

しかし彼はその生涯を通じて、世界を変えるエネルギーを私たちに与え続けてくれていたのである。